

編集後記

本学の「二十一世紀研究教育計画（第三次）」の取り組みとして、平成二十五年度後期から『古事記』の学際的・国際的研究を開始し、二十七年からは「古事記学」の構築」として研究事業を推進してきた。本年度で、その成果論集も三号を迎える。そして、このたび文部科学省による平成二十八年度「私立大学研究ブランディング事業」に採択され、新たなスタートを切る年となった。

本号には、創刊より継続する『古事記』の本文・注釈と補注解説を掲載する。これらは定例研究会で行われた谷口雅博准教授の発表に基づき、研究会での討議を経たものである。そして、本注釈の特徴である補注解説は、各場面における重要な観点について学際的に考察を加えた。本年度の定例研究会は五回開催し（詳細については『研究開発推進センター研究紀要』第十二号の彙報参照）、例年通り研究発表なども行われた。本号に掲載する論考も成果の一部である。

また前号に引き続き、敷田年治『古事記標注』の翻刻を掲載するが、これも事業成果の一部である。

このような研究成果とともに、本号には昨年度に開催した国際シンポジウム「葬送の神話―東アジアの他界観と『古事記』―」について掲載した。鮑江氏の基調講演の翻訳は、本シンポジウム当日に通訳を担当してくださった曹咏梅氏に御願いで掲載の運びとなった。また当日のパネル発表を行った谷口准教授と立石謙次氏には、報告を論考として纏めていただき、司会の黒澤直道教授には総括を執筆いただいた。東アジアに属する民族の他界観について、中国少数民族の事例や『古事記』からどのように繰り広げられたか、その当日の様子を御覧いただきたい。

さらに巻末には、本事業と日本文化研究所が連携して開始した『古事記』の英訳を掲載する。これまで、『古事記』の英訳は、チェンバレンに始まり幾度か行われてきたが、注釈まで含む学術的な英訳は、いまだ存在していない。本英訳は、本事業によって作成した『古事記』

本文・注釈をもととしており、既年度分の『古事記学』から随時作業を行う。公開は、本誌のほか本学HPでも公開する予定であり、これから海外へ『古事記』研究を拡げていくうえで大きな意味を持つであろう。

さて冒頭で述べたように、本事業は文部科学省の研究ブランディング事業に採択された。この支援は、申請のあった一九八校から審査され本学を含む四十校が選定されたもので、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組み私立大学などに対し、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援する取り組みである。本学は、タイプB【世界展開型】に事業名「古事記学」の推進拠点形成―世界と次世代に語り継ぐ『古事記』の先端的研究・教育・発信―」を申請し採択された。これにより本事業は、より日本文化の新たな創造と発展に寄与していくことを目指さなくてはならない。今後ますます『古事記』研究の拠点となるよう事業を推進する予定である。

（渡邊）